



Goldwin Education and Research Activities

for Sustainable Development

—

ゴールドワインの教育・研究活動

ゴールドワインの事業内容

Business content

株式会社ゴールドワインは、モノづくり、コトづくり、環境づくりの3つを軸に、スポーツやアウトドアの領域を中心に人々の新たな挑戦を支え、その可能性をひらいていくライフスタイルクリエイティブカンパニーです。素材や技術、テクノロジー、環境の研究を日々行いながら、多様な背景、専門性をもったブランドの知恵やアイディアをゴールドワイン全体で共有し、モノづくりとコミュニケーションを進化させ続けています。スポーツから日々の暮らしまで、人間のパフォーマンスを最大化することはもちろん、環境負荷を可能な限り減らし、人間を生かし、人間が遊ぶフィールドである自然をより豊かなものにしていきます。誰かがではなく、私たちが率先し、よりよい未来をつくっていきます。



ゴールドウインが実践する環境教育・キャリア教育

Environmental education / Career education



右記のパーソス・ビジョンを掲げるゴールドウインは、独自の総合学習教材を開発し、従業員が講師となつて「キャリア教育」「環境教育」に関する授業を開催しています。社会・環境問題解決に向けた当社の取り組みを紹介するとともに、子どもたち自らが思考する機会を提供し、子どもたちの可能性を引き出すことを目指します。誰もが毎日着る服だからこそ、一人ひとりが真剣に向き合い、考え、アクションを起こすことが大切だと考えています。

Purpose

人を挑戦に導き、人と自然の可能性をひろげる

Envision new possibilities for humanity in nature

Vision

- 1 子どもたちの可能性を引き出し、美しい未来を形づくるための閃きと機会を提供する
- 2 常識を突き抜ける想像力、世界に貢献する革新的な開発で地球環境の改善を目指す
- 3 感動を創造し、持続可能な社会を推進する人間らしい企業になる



授業事例_1

Case study

出前授業

出前授業は、企業の社員や専門的な知識を持った社会人が、教育現場に出向いて子どもたちに授業を行う学習プログラムです。当社は、独自の総合学習教材「服と環境問題、みんなでできること」を開発し、講師となった従業員が学校を訪問し、「環境教育」を実践しています。

● 授業実施学年

・小学4年生～中学3年生

● 内容

- ・服ができるまでの過程（原材料調達から販売まで）
- ・服と環境問題のつながりを考えよう
- ・ゴールドウインはどのような環境配慮の取り組みを行っているか
- ・服（資源）を大切に長く使おう
- ・リユースやリサイクル（再資源化）を学ぼう



授業事例_2

Case study

企業訪問

企業訪問は、事業所などを子どもたちが訪問し、職業や仕事を体験したり、働く人々と接したりする学習活動です。当社は、修学旅行生の企業訪問をお受けしています。スライドを見聞きする講義形式の授業のみならず、当社店舗を視察する学習や、子どもたちが考えることを育むワークショップ形式の授業も行っています。

● 授業実施学年

- ・中学3年生

● 内容

- ・服と環境問題のつながりを考えよう
- ・ゴールドウインはどのような環境配慮の取り組みを行っているか
- ・服（資源）を大切に長く使おう
- ・リユースやリサイクル（再資源化）を学ぼう
- ・店舗で行っている環境配慮の取り組みを探してみよう
- ・スポーツウェアに求められるデザインを考えてみよう



教材の一例 _1

Teaching materials

小・中学向け教材 「服と環境問題～みんなでできること」の開発

毎日着ている服がどのように作られ、環境に悪い影響を与えていたりかを学び、
リサイクル、リペア、ロングライフの大切さを伝える授業

ゴールドウインって…？



綿（コットン）



服をつくるためには…

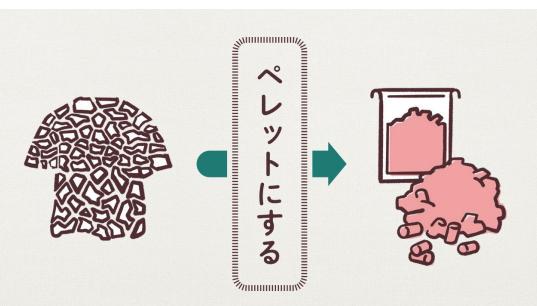
- たくさんの水が必要です
- たくさんの温室効果ガスが出ます
- たくさんの薬品をつかいます
- たくさんのゴミが出ます



服の一生
をみてみよう！



着られなくなった服、
みなさんなら
どうしますか？



私たちの約束！

再資源化を
考えた素材開発と
デザイン

こんな便利なものがあるよ！



教材の一例 _2

Teaching materials

中学向けキャリア教育教材 「社会課題を解決する力を身につけよう」の開発

環境課題について学び、ゴールドウインがその課題にどうやって向き合っているかを伝えることから
「社会課題を解決」する力を身に着けてもらえるよう導くキャリア教育

皆さんの自己紹介

『将来の目標』や
『いまはまっているもの』などを
教えてください。

本日、お話しすること

社会課題の
解決のために
ゴールドウインが
行っていること

本日、お伝えしたいこと

みなさんには
「課題解決」に向けて
思考できる人に
なってほしい

2

過去100年間で
海面が19cmあがり、
1mあがると
日本の砂浜の90%が
無くなってしまう。



店舗視察

ゴールドウインが環境に配慮している
会社だと感じられるポイントを
店舗の中から探してみよう

発表！

店舗の中で見つけた
環境に配慮していると感じられた
ポイントを教えてください！

服を作るための 環境への負荷

1
水の大量消費

2
水質汚染

3
土壤汚染

4
大気汚染

5
CO₂排出



石油由来ではない

化石資源を使わない

ゴミにならない

CO₂の排出が少ない

新たな服の原料になる

マイクロプラスチックを出さない

本日お伝えしたかったことは、
自分が選ぶ将来の
ライフスタイルを想像したときに、
地球環境への負荷を
減らすための視点が持てるか

教材の一例 _3

Teaching materials

ワークショップ教材 「スポーツウェアのデザインとは？」の開発

スポーツウェアのデザインがどのように考えられているか、実際の製品を目の前にし、
自らプロダクトデザイナーになりきりプレゼンテーションしてもらう体験型授業

自己紹介

名前 稲村 淳
年齢 50歳
趣味 魚釣り
仕事 広報



ヒント

- ・だれが使うか考えよう
- ・使うシーンを想像しよう
- ・どのような機能が必要か考えよう

使うシーンでわかること



- ・汗を素早く乾かす速乾素材
- ・長い時間快適に戦える軽量素材
- ・スクランムの力が逃げにくい摩擦系素材
- ・ファンの想いをのせたりサイクル素材

みなさんから事前にいただいた質問

- 1 主に取り組んでいるSDGsの取り組みは？
- 2 服のデザインで気を付けていることは？



Workshop

この製品が
どのようにデザイン
されたかをみんなで
考えてみよう！

2つのグループに分かれて
5分 + 5分 = 10分でみんなの
考えをまとめてみてください

各グループでリーダーを決めていただき、
考えたことを発表していただきます

発表！

グループのリーダーは前に
出てきていただき、それぞれの
製品について、どのような
デザインがされているか、
考えたことを発表してください



見た目からわかること



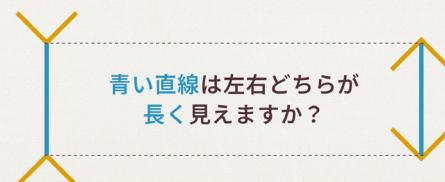
- ・日本の国旗を想起させる赤と白
- ・縁起をかつぐ吉祥文様（和柄）
- ・兜の前立てをイメージした力強いデザイン
- ・錯覚を利用し相手をひるませるデザイン

触ってわかること



- ・相手につかまれにくいフィット性
- ・抱えたボールを落とさないすべり止め
- ・破れにくい強じんな生地と縫製

目の錯覚（錯視）の代表例1



ミュラー・リヤー錯視

目の錯覚（錯視）の代表例2



フィッカ錯視

Point 1
見た目の「かっこよさ」
や「かわいさ」
ということだけが
デザインではない

Point 2
使う人のことを考え、
使うシーンを想像し、
どんな機能が
必要なのかを考える

課題を解決することこそが
デザインの意味

教材の一例 _4

Teaching materials

ゴールドウインが取り組む 自然環境保全の事例紹介

地域と企業、企業と企業が連携することで様々な課題を解決している事例を紹介することで
パートナーシップの重要性について理解を深める授業

東京農業大学
第一高等学校中東部の皆さん、
本日はお招きいただき
ありがとうございます！



質疑応答

今日のお話を聞いて、
質問があれば聞いてみよう！

ゴールドウインって…？



わたしたちの 身近にある 環境課題って？



ファッショ n産業は 世界第2位の 環境汚染産業



1
消費型から循環型への
転換による資源の削減
さらに
ロングライフサイクルへ



2
AIを活用した
服の生産時に
発生する廃棄物を削減する
取り組み



3
クモの巣から
着想を得た、
次世代素材を使用した
ウエア開発



ここまでお話ししたこと

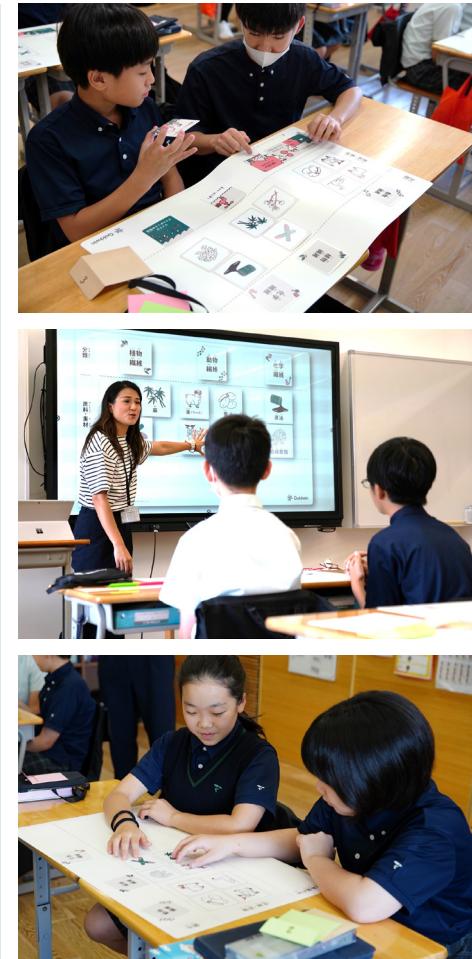
- ・身近にある環境課題の一例
- ・服が環境に与える影響
- ・服を通じた直接的な環境配慮の取り組み
- ・主なSDGsの取り組み

教材の一例 _5

Teaching materials

小学生向けオリジナル 環境カードゲームの制作

小学生たちに楽しみながら服の素材と環境問題とのつながりについて学んでもらう、
オリジナルカードゲームを制作



授業の実績

Teaching materials

2024年4月～12月まで、
48校 1,602名の生徒たちと考える機会を創出



【授業実施実績】

小学校	11校	581名
中学校	26校	779名
高校	8校	226名
大学	3校	16名

48校 1,602名

自ら課題を探し、解決策を考えるなど、
学生の皆さんの想像力・創造力を引き出す工夫を施したプログラムを提供。

▼ 小学5年生

服の見方が、前と変わった。
次は、地球に優しい素材を
買うようにしたい。

▼ 高校3年生

自分も自然環境について考えながら服を
買いたいと思うようになったし、
自分にできる環境汚染の解決策を
考えてみたいとも思った。

▼ 中学3年生

想像以上に環境配慮
されていて驚いた。
自分も環境に配慮できる人に
なりたいと思った。

▼ 高校3年生

授業を受講した 子どもたちの声

Voices

授業を受ける前と後で、
服に対する考え方ガラッと
変わりました。身近な人たちにも
知ってもらうことで自分たちの
未来を変えなきゃと思いました。

▼ 中学3年生

実際のお店で環境配慮の
ポイントを探すのは楽しかったし、
自分もこういう取り組みを
意識して生活したいと思った。

▼ 中学3年生

自分の着ている服をつくるために
誰かが苦しんでいると思うと胸が
痛くなったり。ちゃんと選ぶということが
大切なんだと初めて知った。

▼ 高校教員

“課題解決”をキーワードに、生徒が社会に
出していくにあたり必要な姿勢を示していただけました。
教員でも話すことはできますが、
実際の業界の方からのお話とは説得力が違い、
生徒達も自分事としてとらえていたように思います。

▼ 中学校教員

少し難しい内容もありましたが、
クイズ形式になっていたり、挙手をさせたり、
生徒が興味を持つような工夫がされており、集中し、
楽しみながら学ぶことができたと思います。

▼ 中学校教員

アパレル業界は華やかな
イメージも強い職業ですが、
お話を聞いて驚きがたくさんあり、
「服を買う」と言うことが本当に
必要なのかを考えさせられました。

先生たちの声

Voices

▼ 小学校教員

小学5年生でも
とてもわかりやすい内容でとても
ためになるお話でした。
環境教育を進めていくうえで、
なくてはならない内容でした。

▼ 高校教員

一方的に伝えるのではなく、常に生徒に問いかけるなど、
生徒達が自発的に授業に参加できるような進め方がとても
印象的でした。我々教員の授業だと、テスト対策として
覚えることに集中してしまい本質的な伝わらない
ことに課題を感じていたので、とてもよい機会になりました。

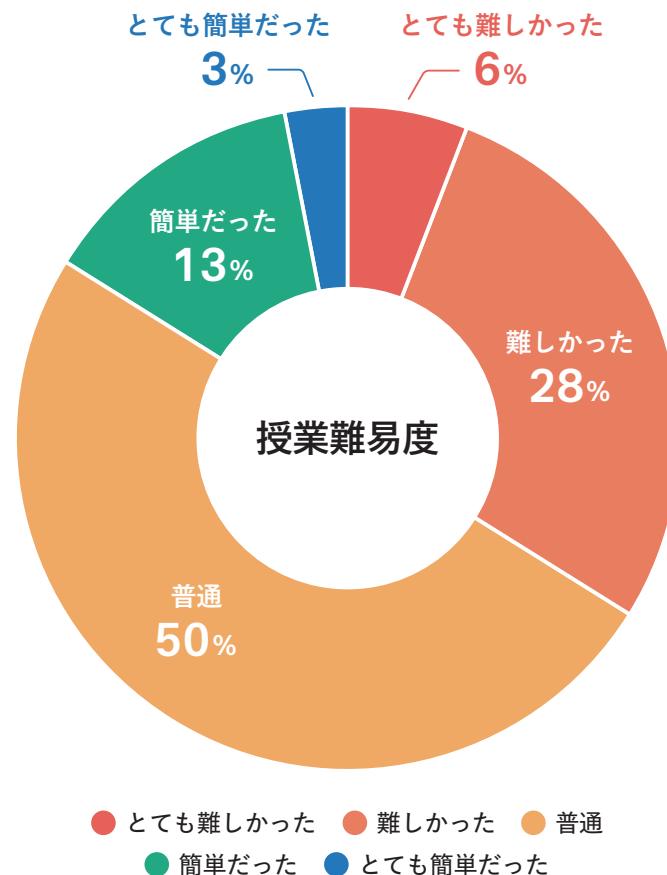
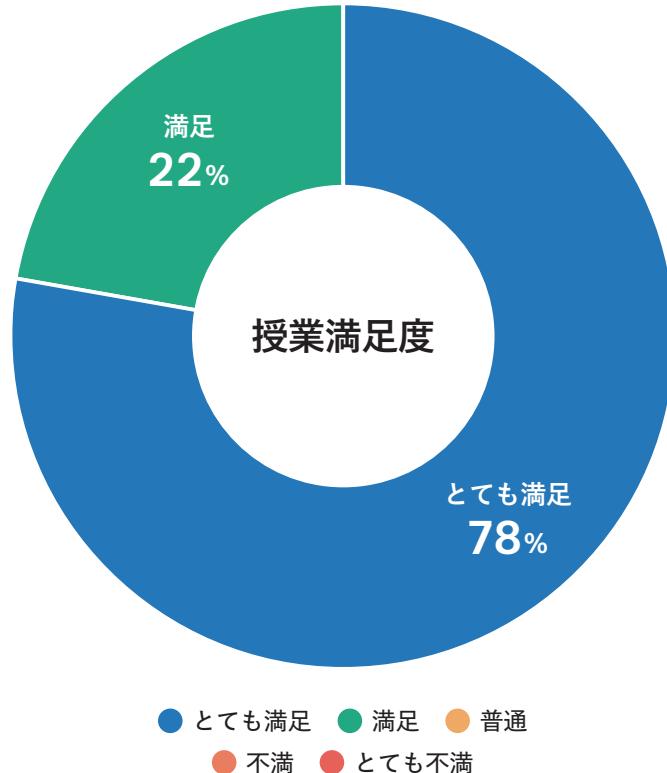
▼ 小学校教員

昨今SDGsに関する教材は多く出ていますが、
実際の企業の取り組みを直接伺う
機会はなかったので、
児童たちにとってはすばらしい
経験になったと思います。

アンケート結果考察_1

Survey results

① 授業の満足度と難易度について

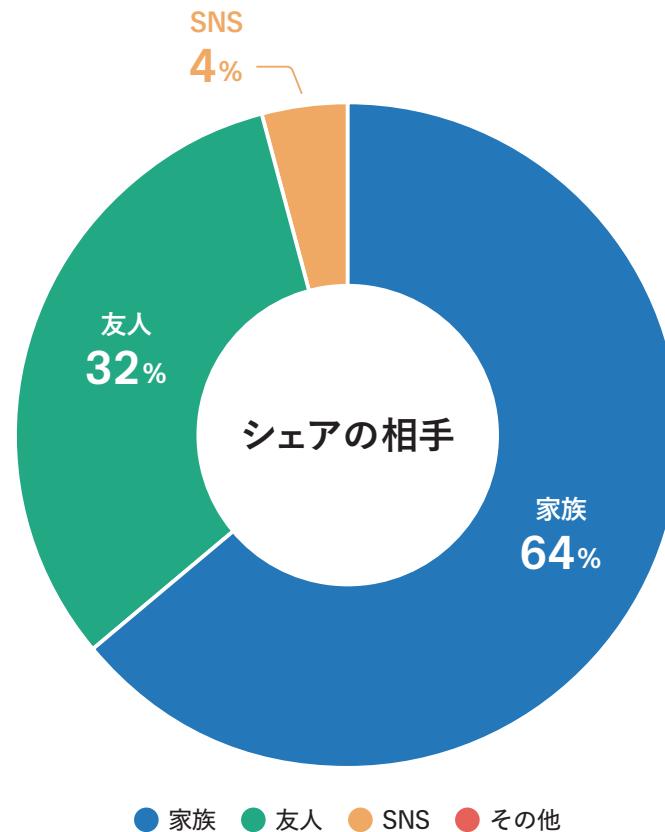
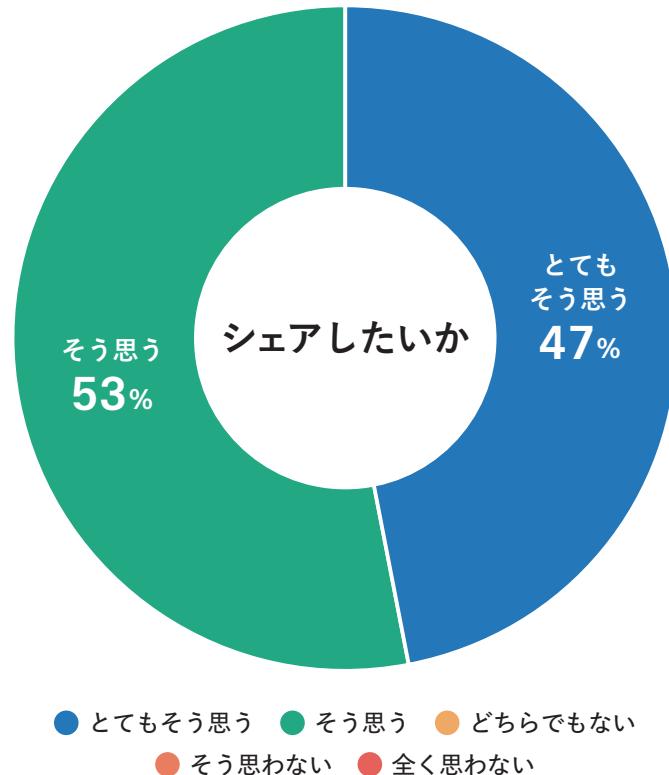


- ・授業の満足度が非常に高く、ほぼすべての生徒さんが『満足』している。
- ・授業の難易度は、3割の生徒さん「やや難しい～難しい」と回答しているが、恐らく限られた短い時間の中で詰め込みすぎたものと想像される。

アンケート結果考察_2

Survey results

② 他者へのシェア願望について

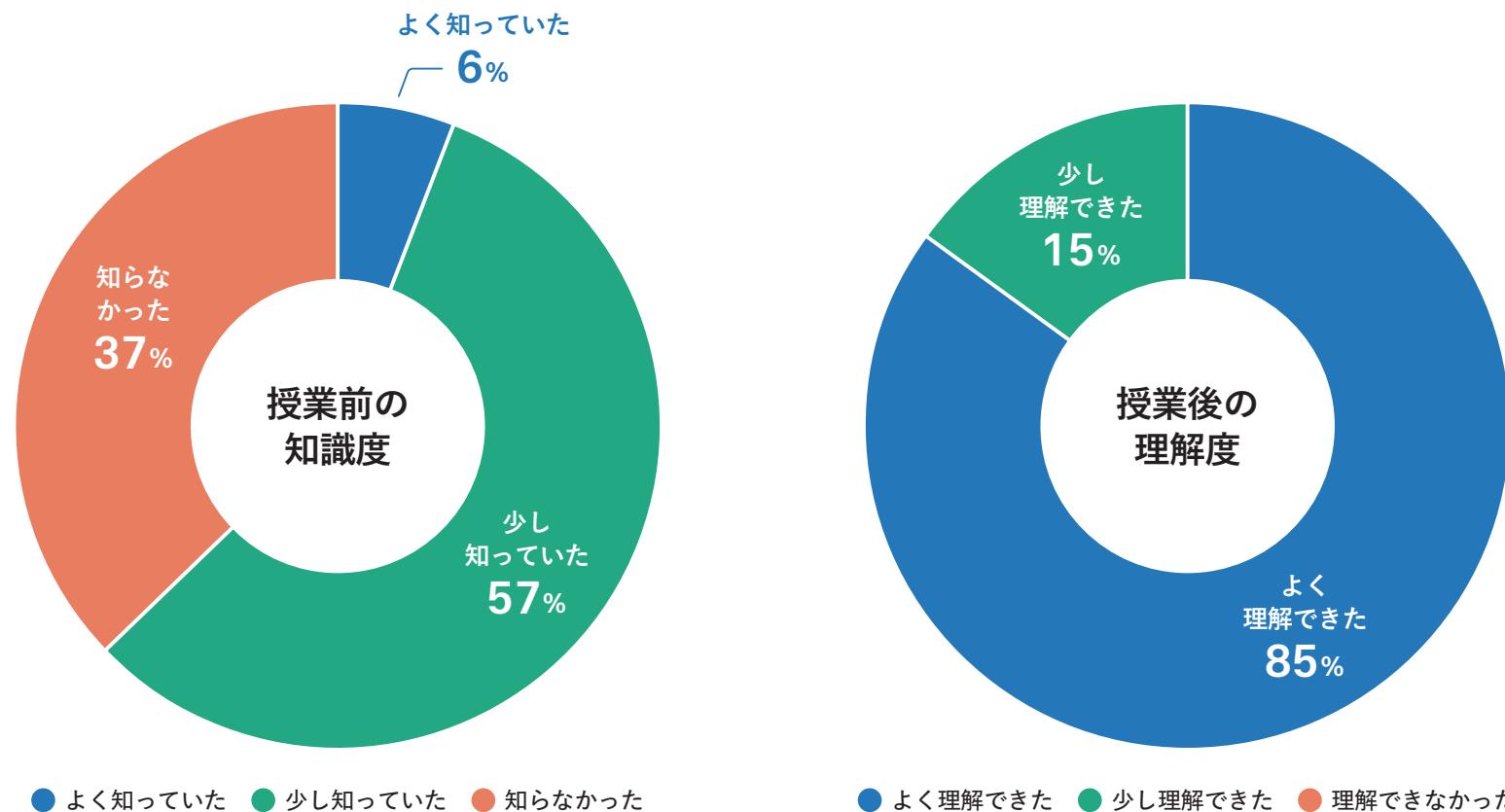


- すべての生徒さんが授業で学んだことを「誰かに伝えたい」と回答しており、共感度が非常に高かった。
- シェアしたい相手の6割は「家族」となり、これはおそらく日ごろから服を買ってもらっている「両親」に伝えることで、環境にやさしい服を自分も着たいという意思が芽生えていると推察される。

アンケート結果考察_3

Survey results

③ 授業前後の「服と環境」の知識・理解度について

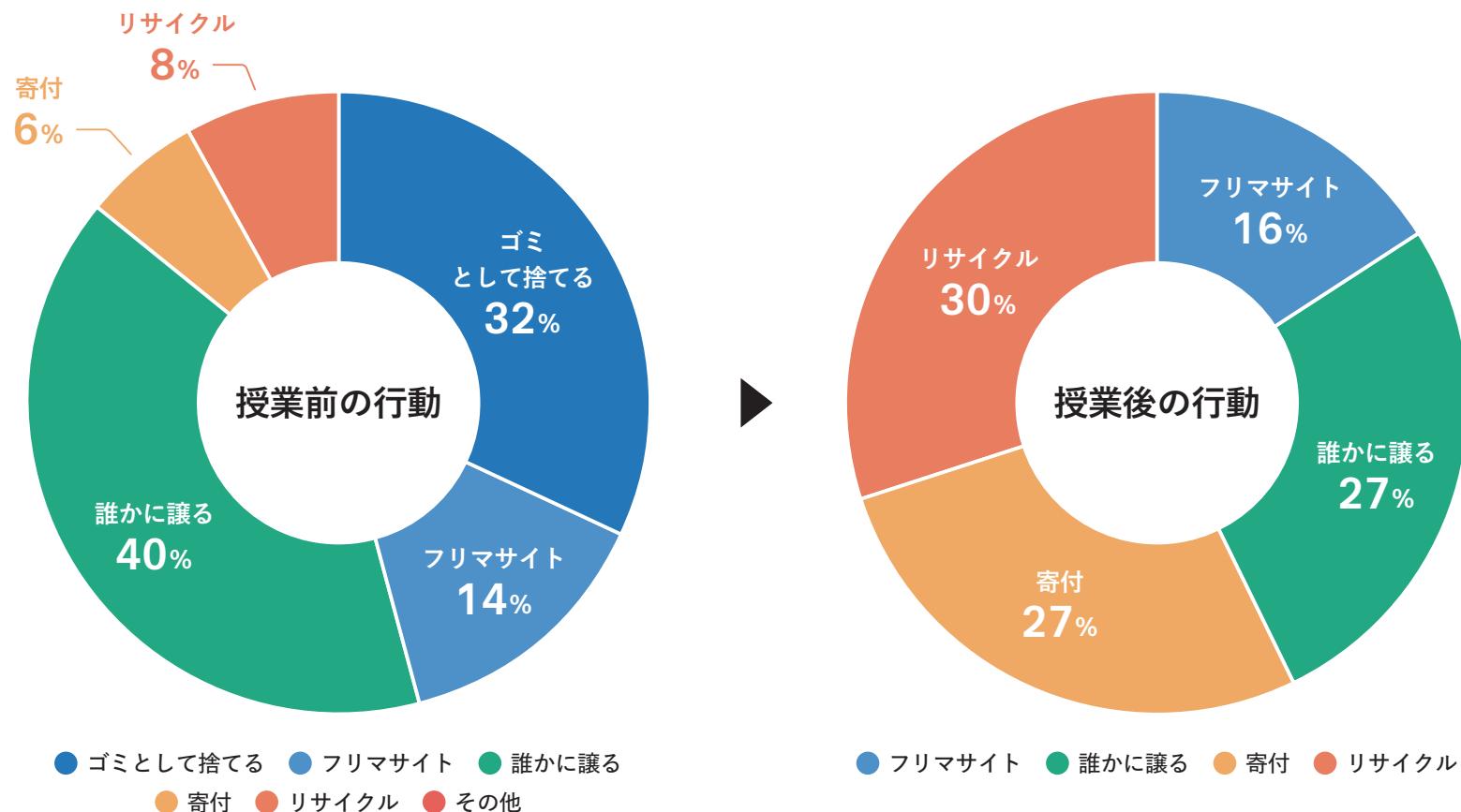


- 授業前、約6割の生徒さんは服と環境について授業で学んだことがあり「少し知っていた」と回答しが、約4割は「知らなかった」と回答。
- 授業後の理解度は非常に高く、理解できなかった生徒は0%だった。教科書から学ぶのではなく、当事者から学んだことで高い理解度を得られたと推察される。

アンケート結果考察_4

Survey results

④ 授業前後での使い終わった服に対する行動の変化について

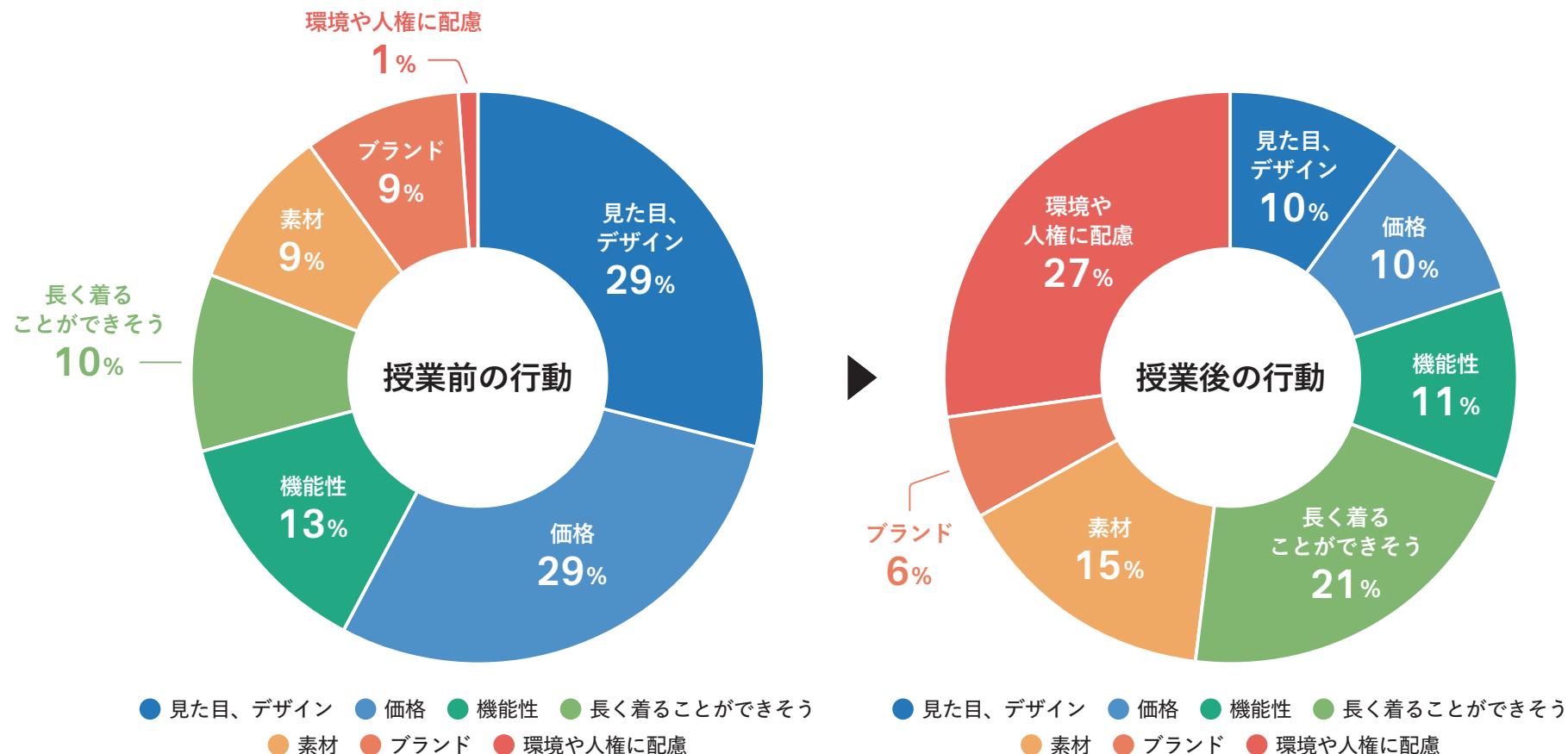


- ・授業前、32%の生徒さんは服をゴミとして出しており、リサイクルしていたのはわずか8%。
しかしながら「フリマサイトでの再販売」や「誰かに譲る」も半数以上を占めており、何かしらの形で循環させることを意識している。
- ・授業後、「ゴミとして出す」と回答したのは0%、「リサイクル」と「寄付」が圧倒的に増え、循環の大切さを改めて意識づけできたものと推察される。

アンケート結果考察_5

Survey results

⑤ 授業前後での服の選び方の変化について

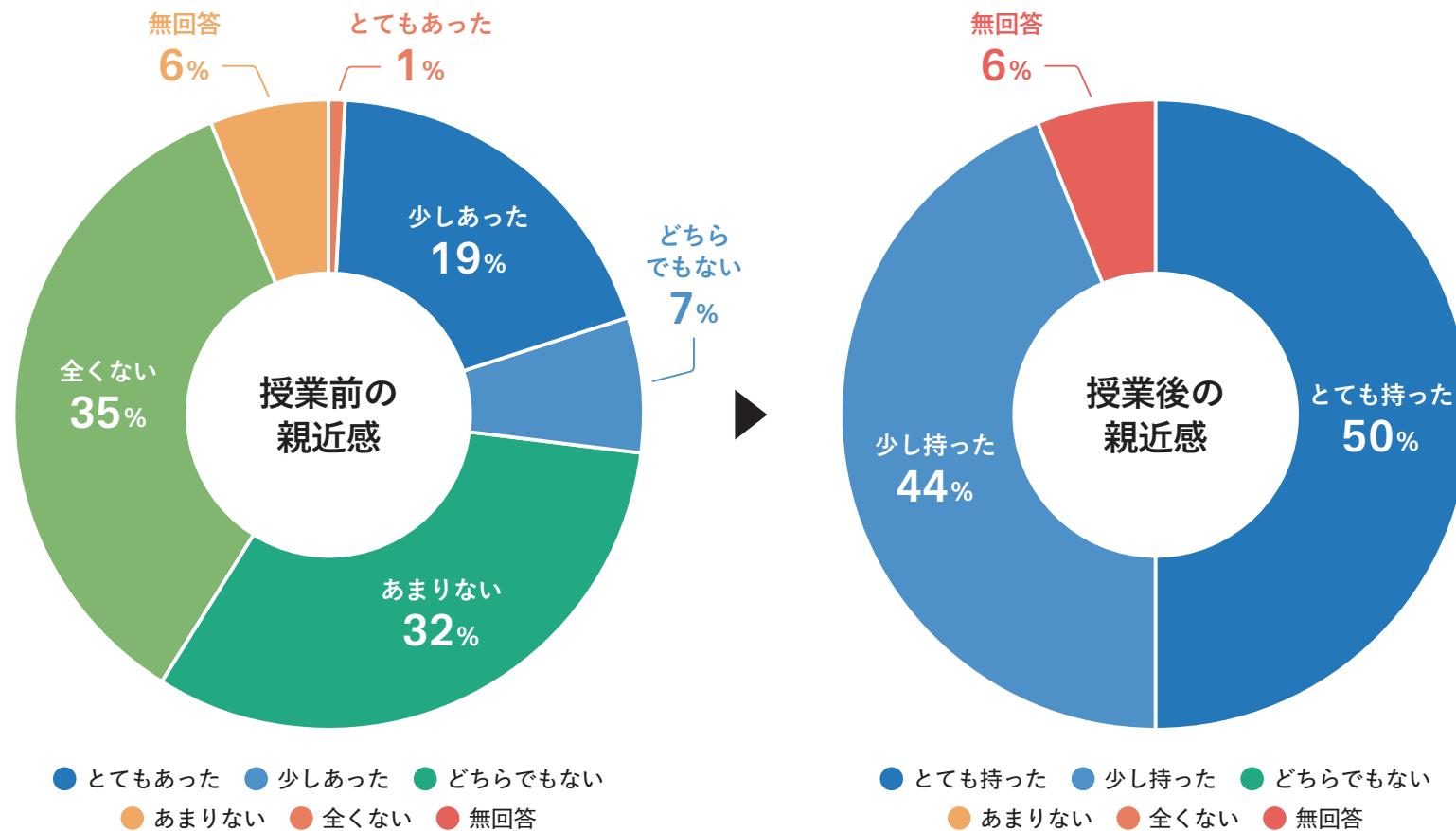


- ・授業前、約6割の生徒さんは「見た目」と「価格」で服を選んでいる。「環境や人権に配慮」された服を選んでいる人はわずか1%しかいない。
- ・授業後、「環境や人権に配慮」が27%に増えた。また、「機能性」や「素材」で服を選ぶ割合も増えており、必要な服を見極めて買うという行動変容につながっていると推察される。

アンケート結果考察_6

Survey results

⑥ 授業前後でのゴールドワインへの親近感の変化について



- 授業前、約8割の生徒はゴールドワインに親近感がない、もしくは「知らない」と回答。
- 授業後、94%の生徒がゴールドワインに「親近感を持った」と回答。服と環境問題の事実を伝え、それに対するゴールドワインの取り組みに非常に共感を得られたことが分かった。